

科目名	人文科学概論	
対象クラス	専門課程1年	1組
担当教官	小清水 裕子	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	丹澤章八編著、鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2002	
使用参考書	丹澤章八編著、改訂版鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2019	
授業の方法	講義(演習を含む)	
科目の概要	人文科学概論領域の学習を通して、日常の言語生活を見直すとともに、医療者に求められるコミュニケーション能力の基盤となる理解する力や、考えたことを人と伝え合うための表現する力を身に付けることを目指す科目です。	
到達目標	医療面接の基盤となるコミュニケーションの知識と方法を身に付けるとともに、医療者に求められる理解する力や表現する力をもとに実践的なコミュニケーション能力を習得します。	
自己学習の進め方	科目の到達目標を目指して、この科目の学習をおして身に付けたいコミュニケーション能力が確かなものとなるように、日常の言語生活を改善・向上させるようとする意識と態度が求められます。	
評価の方法・観点	学習の過程でのパフォーマンスとリフレクションの内容と学科試験を総合して評価します。 前期・後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 30時間
前 期 (15 週)		前期計 15
単元1 言語生活を振り返る		
1	私の言葉づかいは正しい?	1
2	美しい言葉づかいを目指して (1) 日本語を正しく使うために(日本語の特徴と機能を確認する) (2) 言葉を豊かにするために(語彙を豊かに・表現を確認に) (3) 美しい言葉の遣い手になるために(文学の言葉・古典の言葉)	1 1 2
単元2 「わかり合う」ために		
1	「わかる」とは? (1) 「正しくわかる」ために (2) 「わかったこと」はいつも正しい? (3) 「わかったこと」を自分の言葉に置き換えるために	1 1 1
2	「わかったこと」を伝えるために (1) 事実を伝える (2) 思いを伝える (3) 伝わったことを確かめる	1 1 1
単元3 「伝え合う」ために		
1	(1) 「伝わる」とは? (2) 「伝え合う」ための工夫	1 1
2	さまざまな「伝え方」	1
前期の学習の振り返り		
		1
後 期 (15 週)		後期計 15
単元4 「コミュニケーション」とは		
1	「コミュニケーション」って何?	3
2	ことばと身体のコミュニケーション	2
単元5 「コミュニケーション」と社会		
1	「自分」と「他者」で行われるコミュニケーション	2
2	一対多で行われるコミュニケーション	2
3	いろいろなコミュニケーションの姿	3
単元6 点字によるコミュニケーション		
		2
学習の振り返り		
		1

科目名	社会科学概論	
対象クラス	専門課程1年	1組
担当教官	石塚聡	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	なし	
使用参考書	『スタート憲法』(成文堂) 『憲法』弘文堂	
授業の方法	講義	
科目の概要	前期は憲法の人権、後期は憲法の統治機構を学習します。それぞれの学習内容に関連する出来事も同時に取り上げて、時事問題への関心を高めていきます。	
到達目標	基本的人権の内容及び国の機構について理解し、説明できること。社会的な思考を養い、社会におけるコミュニケーション能力を育てること。	
自己学習の進め方	学習プリントに沿って復習をするように心がけましょう。	
評価の方法・観点	前期、後期、各1回の筆記試験を実施して、その平均点を学年末評価とします。	
授	業	内 容
前	期	(15 週)
1、憲法とは何か		前期計15時間 (4時間)
(1) 憲法の歴史		
(2) 日本国憲法の成立		
2、自由権的基本権		(6時間)
(1) 人権の享有主体		
(2) 幸福追求権		
(3) 法の下での平等		
(4) 表現の自由		
3、社会権的基本権		(5時間)
(1) 生存権		
(2) 教育を受ける権利		
(3) 労働基本権		
後	期	(15 週)
1、国民主権と選挙		後期計15時間 (4時間)
(1) 国民主権		
(2) 選挙		
2、統治機構		(6時間)
(1) 国会		
(2) 選挙		
(3) 裁判所		
3、平和外交		(5時間)
(1) 憲法9条の平和主義		
(2) 国際協調主義		
(3) 平和外交		

科目名	自然科学概論	
対象クラス	専門課程1年	1組
担当教官	漆畑 和美	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	教科書はありませんが、教科書となる資料を配付します。	
使用参考書	休み時間の生物学 これだけ生化学	
授業の方法	講義	
科目の概要	1.細胞に関する基本的な概念と細胞小器官の機能について学びます。 2.生体構成成分とその機能について学びます。	
到達目標	理療科目の学習と理解に必要な生命の基本的構造である細胞、生体を構成する物質について理解し、説明又は記述できること。	
自己学習の進め方	講義は事前に配布する資料を用いて進めます。必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。講義後は、履修した内容に関連する理療の科目の内容も含めて理解に努めてください。自己学習時、理解ができないところがあれば、次の講義までに質問してください。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(いずれも筆記試験)の平均点を学年末の評価とします。(小数点以下は切り捨て)	
授業内容	合計 30時間	
前期 (15 週)	前期計 15	
ガイダンス(オリエンテーション)	1	
細胞と生物の連続		
1.細胞の発見及び細胞説	4	
2.細胞小器官の構造とその機能	6	
①核(染色体と核小体)②小胞体(粗面小胞体・滑面小胞体)③ミトコンドリア		
④リソソーム⑤ゴルジ装置⑥中心体		
3.細胞膜の構造と機能	2	
4.上皮細胞の機能的分類	1	
前期のまとめ	1	
後期 (15 週)	後期計 15	
1.生体内に存在する物質の生化学的な概要と機能	10	
①糖質②脂質③タンパク質・アミノ酸④核酸(DNA・RNA)・ATP		
⑤ミネラル⑥ビタミン⑦水		
2.機能性タンパク質について	4	
後期のまとめ	1	

科目名	解剖学 I	
対象クラス	専門課程1年	1組
担当教官	橋本 拓也・山田 忠	
実務経験	有	
修得単位数	4	単位
年間授業時数	120	時間
使用教科書	人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科教科用図書編集委員会編	
使用参考書		
授業の方法	講義	
科目の概要	骨格系、筋系、神経系及び基礎運動学の概要について、模型及び体表観察を加えて、人体の構造を各系統別に学びます。	
到達目標	骨格系、筋系、神経系の位置・形態・構造を理解して、人体や模型上で確認できること、及びそれらの運動の仕組みについて説明できること。	
自己学習の進め方	復習の時間を設け、既習した内容を振り返り、自己の学習状況の確認を行いながら進めてください。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づき、前期、後期の各学期末に試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。 また、6月、11月に学習内容の理解度を把握するための形成的評価を実施します。	
授 業 内 容		合計 120時間
前 期 (15 週)		前期計 60
導入：解剖学 I の年間計画や評価について		1
(1) 解剖学の基礎	ア 解剖学の意義と分類 人体の構成	2
	イ 解剖学的用語 人体の方向と運動	2
(2) 運動器系①骨格系	ア 骨の一般	2
	イ 頭 蓋：脳頭蓋 顔面頭蓋	7
	ウ 脊 柱	3
	エ 胸 郭	2
	オ 上肢の骨：上肢帯 上腕骨 前腕の骨 手の骨	6
	カ 下肢の骨：下肢帯 骨盤 大腿骨 下腿の骨 足の骨	6
	キ 人体各部の主要関節：関節の構造	8
	ク 各関節の運動：関節の運動	7
(3) 運動器系 ②筋系	ア 筋の一般	2
	イ 胸 筋：浅胸筋 深胸筋 横隔膜	4
	ウ 腹 筋：前腹筋 側腹筋 後腹筋	2
	エ 背 筋：浅背筋 深背筋	4
	オ 体幹の筋と運動：片足立位時の骨盤に対する中殿筋第1のてこ	2
後 期 (15 週)		後期計 60
(3) 運動器系 ②筋系	カ 上肢の筋と運動：上腕三頭筋第1のてこ、 腕橈骨筋第2のてこ、上腕三頭筋第3のてこ	8
	キ 上肢の筋：上肢帯筋 上腕筋群 前腕筋群 手の筋	8
	ク 下肢の筋：下肢帯筋 大腿筋群 下腿筋群 足の筋	7
	ケ 下肢の筋と運動：つま先立ち下腿三頭筋第2のてこ、 大腿四頭筋第3のてこ	7
	コ 頭部の筋：表情筋 咀嚼筋	2
	サ 頸 筋：胸鎖乳突筋 斜角筋	2
(4) 神経系	ア 神経系の構成	1
	イ 中枢神経系：脳 脊髄	5
	ウ 末梢神経系：脳神経 脊髄神経 自律神経	8
	エ 伝導路：下行性伝導路(錐体路、錐体外路)、 上行性伝導路(感覚・特殊感覚)	4
(5) 基礎運動学	ア 運動の基礎(てこと滑車)：まとめ	4
	イ 体の重心と姿勢	4

科目名	関係法規	
対象クラス	専門課程1年	1組
担当教官	池田 和久	
実務経験	無	
修得単位数	1	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	医療と関係法規(改定第7版) 岡山ライトハウス	
使用参考書	関係法規第7版 東洋療法学校協会編	
授業の方法	講義	
科目の概要	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の業務や医療・社会福祉に関する法令について基礎的事項を学習します。	
到達目標	法令で定める免許行為、業務上の制限や罰則について説明できること、及び保健医療と社会福祉の主要な法規定を正しく理解し、説明できること。	
自己学習の進め方	法令で定められている免許行為、制限、罰則などがなぜ定められているのかを理解することが大切です。将来、施術者として働いていくことを想定しながら学習を行ってください。	
評価の方法・観点	前期・後期ともに期末試験を筆記試験で行い、それぞれの平均点をもって学年末評価とします。また、形成的評価として、6月と11月に中間試験を実施します。	
授 業 内 容	合計 30時間	
前 期 (15 週)	前期計 15	
ガイダンス (授業の進め方、評価方法など)	2	
1. あん摩・鍼灸における法と制度の概要		
法とは何か、あん摩・鍼灸の制度史	1	
2. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律の概要		
(1) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における免許		
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師免許の資格要件と事務に関する事項	2	
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の身分の消滅と復活	1	
(2) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における業務		
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の業務の独占と業務範囲	1	
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の施術所などに関する規制	1	
ウ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師施術所の名称の制限及び広告の制限	2	
エ あん摩マッサージ指圧、はり、きゆうの業務の停止	1	
オ 無免許営業の取り締まり	1	
(3) 罰 則	3	
後 期 (15 週)	後期計 15	
3. その他の関係法規		
(1) 医療に関する法律		
ア 医療法の概要	2	
イ 医師法の概要	2	
ウ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要	1	
(2) 社会福祉に関する法律		
ア 老人福祉法の概要	1	
イ 児童福祉法の概要	1	
ウ 身体障害者福祉法の概要	1	
エ 知的障害者福祉法の概要	1	
オ 介護保険法の概要	1	
カ 高齢者の医療に関する法律の概要	1	
キ その他法律 (障害者総合支援法、医療保険等)	4	

科目名	経絡経穴概論 I	
対象クラス	専門課程1年	1組
担当教官	麻生 弘樹	
実務経験	無	
修得単位数	3	単位
年間授業時数	90	時間
使用教科書	『新版 経絡経穴概論』日本理療科教員連盟 東洋療法学校協会編	
使用参考書	『経絡経穴概論 改訂版』全国盲学校長会 編 大阪市立盲学校理療科研究部 著 『新版 東洋医学概論』東洋療法学校協会 編 教科書検討小委員会著	
授業の方法	講義	
科目の概要	あま指師として必要な臓腑・経絡の概念、十四経脈とその経穴の名称、主要な経穴の部位及び所屬、五要穴について学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 同身寸法、骨度法の概念を理解し、それを用いて人体に取穴することができること。 2. 十四経脈の走行・流注の概要を理解し、説明することができること。 3. 十四経脈所屬の経穴を理解し、取穴することができること。 4. 募穴、兪穴、五行穴、原穴、絡穴、郄穴などの要穴を理解し、取穴することができること。 	
自己学習の進め方	授業で大事な所はノートしていただき、反復し憶えて下さい。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に筆記試験と経穴名の暗唱テストを実施し、その結果で評価します。それぞれの評価結果の平均点をもって学年末評価とします。6月と11月には形成的評価（中間試験）を筆記試験で行いますが、成績には加味しません。	
授 業 内 容		合計 90時間
前 期 (15 週)		前期計 45
第1章 経絡・経穴の基礎		
経絡の概要		5
経穴の概要		5
要穴の概略		5
(原穴 げき穴 絡穴 募穴 背部兪穴 五兪穴・五行穴 四絡穴 八会穴 八脈交会穴 下合穴)		
第2章 経脈・経穴		
十四経脈とその経穴		
1. 督脈		5
2. 任脈		5
3. 手の太陰肺経		3
4. 手の陽明大腸経		6
5. 足の陽明胃経		9
前期のまとめ		2
後 期 (15 週)		後期計 45
第2章 経脈・経穴		
十四経脈とその経穴（前期からの続き）		
6. 足の太陰脾経		5
7. 手の少陰心経		2
8. 手の太陽小腸経		5
9. 足の太陽膀胱経		8
10. 足の少陰腎経		5
11. 手の厥陰心包経		2
12. 手の少陽三焦経		4
13. 足の少陽胆経		7
14. 足の厥陰肝経		5
後期のまとめ		2

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習 I	
対象クラス	専門課程1年	1組A班
担当教官	柴田均一	
実務経験	無	
修得単位数	4	単位
年間授業時数	120	時間
使用教科書	岡山盲学校理療科研究会編著 「手技療法の基礎と臨床(改定第4版)」	
使用参考書	自作術式集	
授業の方法	実技	
科目の概要	あん摩の基本手技を修得し、座位、側臥位、腹臥位等の患者の各姿勢において、身体各部位へ適切且安全に施術ができるように学習します。	
到達目標	1. 理療師として必要な身だしなみ、言葉使い、接遇態度を修得できること。 2. 患者の姿勢や施術部位に応じた適切な位置取ができること。 3. 施術部位の骨格や筋などの的確な触察ができ、正確な部位取ができること。 4. 基本7手技を適度に組合せて、身体各部に安全且適切な施術が行えること。 5. 患者の病態や感受性に合わせて刺激量の調整ができること。 6. 大凡60～80分以内を目途に、全身を通しての施術ができること。 7. 揉みかえし、骨折、転倒などのリスクをよく理解し、その予防対策を実践できること。	
自己学習の進め方	履修した内容を自身の下肢などに対して可能な限り練習します。「あん摩練習会」が開始された際はそれに参加することをお勧めします。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づいて行います。前期、後期の各学期末に実技試験を複数教官で実施し、その平均点をもって学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 120時間
前 期 (15 週)		前期計 60
ガイダンス (年間授業内容の説明、適切な身だしなみ、言葉使い、授業中のルール、使用実技室の環境確認等)		2
1 基本7手技の紹介		14
軽擦法		
揉捏法		
圧迫法		
運動法		
打法		
振せん法		
曲手		
2 座位におけるあん摩		40
肩上部		
背腰部		
上肢		
頸部		
前期のまとめ		4
後 期 (15 週)		後期計 60
3 側臥位におけるあん摩		30
肩背腰部		
殿部・下肢		
上肢		
頸部		
4 腹臥位におけるあん摩		16
肩背腰部		
殿部・下肢		
5 全身あん摩		10
後期のまとめ		2
施術所見学		2

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習 I	
対象クラス	専門課程1年	1組B班
担当教官	松浦久泰	
実務経験	無	
修得単位数	4	単位
年間授業時数	120	時間
使用教科書	岡山盲学校理療科研究会編著 「手技療法の基礎と臨床(改定第4版)」	
使用参考書	自作術式集	
授業の方法	実技	
科目の概要	あん摩の基本手技を修得し、座位、側臥位、腹臥位等の患者の各姿勢において、身体各部位へ適切且安全に施術ができるように学習します。	
到達目標	1. 理療師として必要な身だしなみ、言葉使い、接遇態度を修得できること。 2. 患者の姿勢や施術部位に応じた適切な位置取ができること。 3. 施術部位の骨格や筋などの的確な触察ができ、正確な部位取ができること。 4. 基本7手技を適度に組合せて、身体各部に安全且適切な施術が行えること。 5. 患者の病態や感受性に合わせて刺激量の調整ができること。 6. 大凡60～80分以内を目途に、全身を通しての施術ができること。 7. 揉みかえし、骨折、転倒などのリスクをよく理解し、その予防対策を実践できること。	
自己学習の進め方	履修した内容を自身の下肢などに対して可能な限り練習します。「あん摩練習会」が開始された際はそれに参加することをお勧めします。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づいて行います。前期、後期の各学期末に実技試験を複数教官で実施し、その平均点をもって学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 120時間
前 期 (15 週)		前期計 60
ガイダンス(年間授業内容の説明、適切な身だしなみ、言葉使い、授業中のルール、使用実技室の環境確認等)		2
1 基本7手技の紹介		14
軽擦法		
揉捏法		
圧迫法		
運動法		
打法		
振せん法		
曲手		
2 座位におけるあん摩		40
肩上部		
背腰部		
上肢		
頸部		
前期のまとめ		4
後 期 (15 週)		後期計 60
3 側臥位におけるあん摩		30
肩背腰部		
殿部・下肢		
上肢		
頸部		
4 腹臥位におけるあん摩		16
肩背腰部		
殿部・下肢		
5 全身あん摩		10
後期のまとめ		2
施術所見学		2

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程1年	1組A班
担当教官	牧 邦子	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	岡山盲理療研究会編著 手技療法の基礎と臨床第4版	
使用参考書	人体の構造と機能(解剖学)第2版	
授業の方法	実技	
科目の概要	マッサージの基礎を実技練習により学習します。実技練習は利用者同士でペアになり、パウダーを使用した身体各部へのマッサージ施術を行います。	
到達目標	施術者として必要なマッサージ施術に関する基礎的な知識と技能を習得し、施術を適切かつ効果的に行う能力を身につける。心構え・身だしなみ・会話・態度等、施術者としての基本を理解し実践できる。手洗い・手指消毒等の衛生管理ができる。	
自己学習の進め方	上肢の筋力が付くよう日々訓練し、爪と手指の手入れを行います。深化型補習への参加によって、履修した内容を復習します。また、施術部位の解剖学的特徴を理解し、基本手技を正しくかつ安全に行うよう練習します。	
評価の方法・観点	前期・後期の各学期末に、複数教官による実技試験を行って評価し、その平均点をもって学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 導入 (シラバス、実技室使用方法、衛生・リスク管理、身だしなみ、施術用具の取扱い)		2
2. 肢位、人体の区分、方向、面、マッサージの基本手技の説明		2
3. 身体各部への施術		
(1) 前腕のマッサージ		10
(2) 下腿のマッサージ		8
(3) 手関節のマッサージ		6
前期のまとめ		2
後 期 (15 週)		後期計 30
3. 身体各部への施術		
(4) 足関節		6
(5) 膝関節		8
(6) 肩関節		8
(7) 頭部へのマッサージ		6
後期のまとめ		2

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程1年	1組B班
担当教官	渡邊 麗恵	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	岡山盲理療研究会編著 手技療法の基礎と臨床第4版	
使用参考書	人体の構造と機能(解剖学) 第2版	
授業の方法	実技	
科目の概要	マッサージの基礎を実技練習により学習します。実技練習は利用者同士でペアになり、パウダーを使用した身体各部へのマッサージ施術を行います。	
到達目標	施術者として必要なマッサージ施術に関する基礎的な知識と技能を習得し、施術を適切かつ効果的に行う能力を身につける。心構え・身だしなみ・会話・態度等、施術者としての基本を理解し実践できる。手洗い・手指消毒等の衛生管理ができる。	
自己学習の進め方	上肢の筋力が付くよう日々訓練し、爪と手指の手入れを行います。深化型補習への参加によって、履修した内容を復習します。また、施術部位の解剖学的特徴を理解し、基本手技を正しくかつ安全に行うよう練習します。	
評価の方法・観点	前期・後期の各学期末に、複数教官による実技試験を行って評価し、その平均点をもって学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 導入 (シラバス、実技室使用方法、衛生・リスク管理、身だしなみ、施術用具の取扱い)		2
2. 肢位、人体の区分、方向、面、マッサージの基本手技の説明		2
3. 身体各部への施術		
(1) 前腕のマッサージ		10
(2) 下腿のマッサージ		8
(3) 手関節のマッサージ		6
前期のまとめ		2
後 期 (15 週)		後期計 30
3. 身体各部への施術		
(4) 足関節		6
(5) 膝関節		8
(6) 肩関節		8
(7) 頭部へのマッサージ		6
後期のまとめ		2

令和3年度授業計画書(シラバス)

様式1

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ (指圧実技)	
対象クラス	専門課程1年	1組A班
担当教官	佐取 幸枝	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 (岡山ライトハウス)	
使用参考書	よくわかる指圧テクニック (岡本雅典)、指圧 (増永静人)	
授業の方法	実技	
科目の概要	指圧実技に関する基礎的な知識と施術リスクについて理解し、適切かつ効果的な指圧施術を行う能力と技術を修得します。	
到達目標	リスク管理を理解した上で、安全な指圧施術ができるようになること。	
自己学習の進め方	授業前に必ず術式確認の予習を行い、授業中は技術訓練に集中できるよう準備して下さい。解剖学など他科目における履修内容を関連付けて振り返ることを心がけてください。授業中に修正を指導された箇所は特に反復練習を行ってください。	
評価の方法・観点	前期末と後期末の実技試験にて複数教官による評価を行い、その平均点をもって学年末の評価とします。基本手技の技術、術式の流れ、施術部位の触察、衛生リスク管理、患者への対応等について評価します。	
授業内容	合計	60時間
前期 (15週)		前期計 30
1. ガイダンス (授業計画・評価)		1
2. 施術への導入 指圧の意義と役割 施術者としての心構え 施術室の管理・施術用具の取り扱い 衛生管理 (手指の消毒を含む) ・リスク管理 指圧の基礎・基本手技		5
3. 身体各部への施術		
背腰部の指圧		16
臀部の指圧		6
4. 前期のまとめ		2
後期 (15週)		後期計 30
3. 身体各部への施術 (続き)		
下肢の指圧 (伏臥位)		12
頭頸部の指圧		6
腹部の指圧		2
上肢の指圧		4
下肢の指圧 (仰臥位)		4
4. 後期のまとめ		2

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ	
対象クラス	専門課程1年	1組B班
担当教官	滝修	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床(岡山ライトハウス)	
使用参考書	よくわかる指圧テクニック(岡本雅典)、指圧(増永静人)	
授業の方法	実技	
科目の概要	指圧実技に関する基礎的な知識と施術リスクについて理解し、適切かつ効果的な指圧施術を行う能力と技術を修得します。	
到達目標	リスク管理を理解した上で、安全な指圧施術ができるようになること。	
自己学習の進め方	授業前に必ず術式確認の予習を行い、授業中は技術訓練に集中できるよう準備して下さい。解剖学など他科目における履修内容を関連付けて振り返ることを心がけてください。授業中に修正を指導された箇所は特に反復練習を行ってください。	
評価の方法・観点	前期末と後期末の実技試験にて複数教官による評価を行い、その平均点をもって学年末の評価とします。基本手技の技術、術式の流れ、施術部位の触察、衛生リスク管理、患者への対応等について評価します。	
授業内容		合計 60時間
前期 (15週)		前期計 30
1. ガイダンス(授業計画・評価)		1
2. 施術への導入 指圧の意義と役割 施術者としての心構え 施術室の管理・施術用具の取り扱い 衛生管理(手指の消毒を含む)・リスク管理 指圧の基礎・基本手技		5
3. 身体各部への施術		
背腰部の指圧		16
臀部の指圧		6
4. 前期のまとめ		2
後期 (15週)		後期計 30
3. 身体各部への施術(続き)		
下肢の指圧(伏臥位)		12
頭頸部の指圧		6
腹部の指圧		2
上肢の指圧		4
下肢の指圧(仰臥位)		4
4. 後期のまとめ		2

科目名	はりきゅう基礎実習 I	
対象クラス	専門課程1年	1組A班
担当教官	加藤 麦、麻生 弘樹	
実務経験	有	
修得単位数	3	単位
年間授業時数	90	時間
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 オリエンス研究会編	
使用参考書	新版 経絡経穴概論	
授業の方法	実技	
科目の概要	衛生操作、用具の取扱い、施術の流れ、生体観察の基本、主な経穴の取穴等、鍼施術の基礎と安全動作を学習します。	
到達目標	1. 施術におけるリスクについて説明し、安全に施術することができる。 2. 刺鍼法（管鍼法）について説明・実践することができる。 3. 身体各部の主な経穴を取穴して刺鍼することができる。	
自己学習の進め方	授業毎に基本手技の練習を行い、技術の習得度を確認します。実技室以外では鍼を扱わないようにすること。	
評価の方法・観点	前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。施術の流れや刺鍼技術を複数教官による実技試験を実施し、実技評価基準に基づき評価します。	
授 業 内 容		合計 90時間
前 期 (15 週)		前期計 45
1. 年間授業計画、必要用具、評価についての説明		2
2. 実技室の使い方、手洗い・手指消毒法、実技における諸注意		2
3. 揉捏、押手、留管、弾入		2
4. 両手挿管		2
5. 片手挿管		4
6. 銀鍼による刺鍼練習器への刺鍼		10
*寸3-3番鍼から始め、寸3-2番、寸6-3番、寸6-2番と移行する。		
7. 皮膚消毒、オートクレーブ		2
8. 自分の下肢への刺鍼練習		5
9. 利用者同士で刺鍼練習を行う際の諸注意		1
10. 利用者同士で下腿への刺鍼練習		6
11. 下腿の主な経穴への刺鍼練習		8
12. 評価		
13. 講評		1
後 期 (15 週)		後期計 45
1. 前腕部の主な経穴への刺鍼練習		6
2. 腰部の主な経穴への刺鍼練習		11
3. 背部の主な経穴への刺鍼練習		6
4. 肩部の主な経穴への刺鍼練習		6
5. 頸部の主な経穴への刺鍼練習		4
6. 頭部の主な経穴への刺鍼練習		2
7. 胸腹部の主な経穴への刺鍼練習		3
8. 顔面部の主な経穴への刺鍼練習		2
9. 膝関節周囲の主な経穴への刺鍼練習		2
10. 指サック、グローブを装着した刺鍼体験		2
11. 評価		
12. 講評		1

科目名	はりきゅう基礎実習 I	
対象クラス	専門課程1年	1組B班
担当教官	佐藤 智紀、山田 忠	
実務経験	有	
修得単位数	3	単位
年間授業時数	90	時間
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 オリエンス研究会編	
使用参考書	新版 経絡経穴概論	
授業の方法	実技	
科目の概要	衛生操作、用具の取扱い、施術の流れ、生体観察の基本、主な経穴の取穴等、鍼施術の基礎と安全動作を学習します。	
到達目標	1. 施術におけるリスクについて説明し、安全に施術することができる。 2. 刺鍼法(管鍼法)について説明・実践することができる。 3. 身体各部の主な経穴を取穴して刺鍼することができる。	
自己学習の進め方	授業毎に基本手技の練習を行い、技術の習得度を確認します。実技室以外では鍼を扱わないようにすること。	
評価の方法・観点	前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。施術の流れや刺鍼技術を複数教官による実技試験を実施し、実技評価基準に基づき評価します。	
授 業 内 容		合計 90時間
前 期 (15 週)		前期計 45
1. 年間授業計画、必要用具、評価についての説明		2
2. 実技室の使い方、手洗い・手指消毒法、実技における諸注意		2
3. 揉捏、押手、留管、弾入		2
4. 両手挿管		2
5. 片手挿管		4
6. 銀鍼による刺鍼練習器への刺鍼		10
*寸3-3番鍼から始め、寸3-2番、寸6-3番、寸6-2番と移行する。		
7. 皮膚消毒、オートクレーブ		2
8. 自分の下肢への刺鍼練習		5
9. 利用者同士で刺鍼練習を行う際の諸注意		1
10. 利用者同士で下腿への刺鍼練習		6
11. 下腿の主な経穴への刺鍼練習		8
12. 評価		
13. 講評		1
後 期 (15 週)		後期計 45
1. 前腕部の主な経穴への刺鍼練習		6
2. 腰部の主な経穴への刺鍼練習		11
3. 背部の主な経穴への刺鍼練習		6
4. 肩部の主な経穴への刺鍼練習		6
5. 頸部の主な経穴への刺鍼練習		4
6. 頭部の主な経穴への刺鍼練習		2
7. 胸腹部の主な経穴への刺鍼練習		3
8. 顔面部の主な経穴への刺鍼練習		2
9. 膝関節周囲の主な経穴への刺鍼練習		2
10. 指サック、グローブを装着した刺鍼体験		2
11. 評価		
12. 講評		1

科目名	はりきゅう基礎実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程1年	1組A班
担当教官	池田 和久・高橋 清志	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 岡山ライトハウス	
使用参考書		
授業の方法	実技	
科目の概要	灸施術を行う上で必要な基礎的な知識と安全で正確な灸灸操作を学びます。	
到達目標	灸施術に関する基礎的な知識と技能について理解し、施術を適切かつ効果的に、安全に行う能力と態度を習得します。	
自己学習の進め方	ティッシュペーパー等の身近にある材料を使用して、艾炷作成時の手・指づくりを行います。	
評価の方法・観点	評価は前期末・後期末に実技試験を実施し、それぞれの平均点をもって学年末評価とします。また、各学期の中間期に、学年末評価に関係しない形成的評価を平常授業時に観察法により行います。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 年間授業計画、評価、必要用具、身だしなみについての説明		1
2. 実技室の環境認知・使い方、手洗い、廃棄物の処理及び清掃について		1
3. 灸についての基礎知識と、施灸体験		2
4. 点火器具の操作法		2
5. 艾の鑑別、過誤やリスクについて		4
6. 母指頭大、中指頭大、小指頭大の艾炷作成及び点火		18
*適宜、臨床でよく使用する経穴の紹介と取穴を行う。 利用者同士の施灸に当たっては、事前に担当教官による技術習得状況の確認を行う		
7. 前期のまとめ		2
後 期 (15 週)		後期計 30
1. 米粒大の艾炷作成		8
2. 台座灸の操作		10
3. 温灸器具を用いた施灸法		5
4. 施灸による全身調整法		2
5. その他灸法の施灸法(隔物灸等)		4
*適宜、臨床でよく使用する経穴の紹介と取穴を行う。 利用者同士の施灸に当たっては、事前に担当教官による技術習得状況の確認を行う		
6. 後期のまとめ		1

科目名	はりきゅう基礎実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程1年	1組B班
担当教官	山田 忠・大久保 正樹	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 岡山ライトハウス	
使用参考書		
授業の方法	実技	
科目の概要	灸施術を行う上で必要な基礎的な知識と安全で正確な灸灸操作を学びます。	
到達目標	灸施術に関する基礎的な知識と技能について理解し、施術を適切かつ効果的に、安全に行う能力と態度を習得します。	
自己学習の進め方	ティッシュペーパー等の身近にある材料を使用して、艾炷作成時の手・指づくりを行います。	
評価の方法・観点	評価は前期末・後期末に実技試験を実施し、それぞれの平均点をもって学年末評価とします。また、各学期の中間期に、学年末評価に関係しない形成的評価を平常授業時に観察法により行います。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 年間授業計画、評価、必要用具、身だしなみについての説明		1
2. 実技室の環境認知・使い方、手洗い、廃棄物の処理及び清掃について		1
3. 灸についての基礎知識の習得と、灸灸体験		2
4. 点火器具の操作法		2
5. 艾の鑑別、過誤やリスクについて		4
6. 母指頭大、中指頭大、小指頭大の艾炷作成及び点火		18
*適宜、臨床でよく使用する経穴の紹介と取穴を行う。 利用者同士の灸灸に当たっては、事前に担当教官による技術習得状況の確認を行う		
7. 前期のまとめ		2
後 期 (15 週)		後期計 30
1. 米粒大の艾炷作成		8
2. 台座灸の操作		10
3. 温灸器具を用いた灸灸法		5
4. 灸灸による全身調整法		2
5. その他灸法の灸灸法 (隔物灸等)		4
*適宜、臨床でよく使用する経穴の紹介と取穴を行う。 利用者同士の灸灸に当たっては、事前に担当教官による技術習得状況の確認を行う		
6. 後期のまとめ		1

科目名	人文科学概論	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	三浦 修一	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	丹澤章八編著、鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2002	
使用参考書	丹澤章八編著、改訂版鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2019	
授業の方法	講義（演習を含む）	
科目の概要	対人コミュニケーションにおいて必要とされる知識に基づいて、医療面接の実際を体験的に学習することを通して、臨床場面における理療者に求められるコミュニケーション能力を身に付けることを目指す科目です。	
到達目標	医療面接に必要なコミュニケーションの方法についての知識をもとに、理療者に求められる医療面接の基礎を習得します。	
自己学習の進め方	科目の到達目標を目指して、他の科目との関連を意識しつつ、それぞれの単元の学習内容を確かに身に付けることができるように復習を着実にを行うことが求められます。	
評価の方法・観点	前期は学習の段階に応じて提出を求める振り返りの内容と学科試験を総合して評価します。後期については、学科試験を基本としますが臨床実習前試験の内容も加味して評価します。前期・後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 30時間
前 期 (15 週)		前期計 15
単元1 「医療面接」の基礎		
1	オリエンテーション・自己紹介・科目のゴールの確認	1
2	「医療従事者」の基盤としてのコミュニケーション能力とは	1
3	コミュニケーションスキルとは	1
4	コミュニケーションの要素とは	1
5	情報活用のスキルとモラル	1
単元2 「医療面接」を理解する		
1	医療面接とは？（その目的と役割）	
	(1) 医療面接と問診	1
	(2) 医療面接の役割	1
2	東洋医学における医療面接の意義と歴史（十問診を中心に）	1
3	医療面接の流れ（医療面接の概略）	1
単元3 医療面接の実際－1－		
1	医療面接の準備	
	(1) 医療面接の心構えと整備	1
	(2) 問診と記録	1
2	医療面接の導入部	
	(1) 挨拶から自己紹介（全体像の把握）	1
3	医療面接の実際	
	(1) 前半（傾聴）・（2）中間（開かれた問いと要約）	1
	(3) 後半（十問診から診察へ）	1
前期のまとめ 学んだことを振り返って伝えよう		1
後 期 (15 週)		後期計 15
単元4 医療面接の実際－2－		
1	質問の方法（開かれた問いと閉じられた問い）	2
2	対話の技法（傾聴と共感）	2
3	患者の解釈モデル（認知パターンを理解する）	2
4	患者への説明と教育（鍼灸治療の特性として）	2
5	特性に応じた面接（患者の多様性と関わるために）	2
6	医療面接の実際と記録	4
単元5 面接の記録（施術録）		
1	施術録のフォーマット・2 予診票・医療面接と施術録の統合	1

科目名	社会科学概論	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	石塚聡	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	なし	
使用参考書	『スタート憲法』(成文堂) 『憲法』弘文堂	
授業の方法	講義	
科目の概要	前期は憲法の人権、後期は憲法の統治機構を学習します。それぞれの学習内容に関連する出来事も同時に取り上げて、時事問題への関心を高めていきます。	
到達目標	基本的人権の内容及び国の機構について理解し、説明できること。社会的な思考を養い、社会におけるコミュニケーション能力を育てること。	
自己学習の進め方	学習プリントに沿って復習をするように心がけましょう。	
評価の方法・観点	前期、後期、各1回の筆記試験を実施して、その平均点を学年末評価とします。	
授業内容	30時間	
前期 (15週)	前期計15時間	
1、憲法とは何か	(4時間)	
(1) 憲法の歴史		
(2) 日本国憲法の成立		
2、自由権の基本権	(6時間)	
(1) 人権の享有主体		
(2) 幸福追求権		
(3) 法の下での平等		
(4) 表現の自由		
3、社会権の基本権	(5時間)	
(1) 生存権		
(2) 教育を受ける権利		
(3) 労働基本権		
後期 (15週)	後期計15時間	
1、国民主権と選挙	(4時間)	
(1) 国民主権		
(2) 選挙		
2、統治機構	(6時間)	
(1) 国会		
(2) 内閣		
(3) 裁判所		
3、平和主義	(5時間)	
(1) 憲法9条の平和主義		
(2) 国際協調主義		
(3) 平和外交		

科目名	自然科学概論	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	漆畑 和美	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	ありませんが、教科書となる資料を配付します。	
使用参考書		
授業の方法	講義	
科目の概要	1. 遺伝について基本的概念(メンデルの法則など)を学びます。 2. 免疫について基本的概念を学びます。	
到達目標	1年次に学んだことを踏まえ、日常生活や社会、理療科目との関連を図りながら、遺伝現象や免疫に関する基本的な概念や原理・法則を理解し説明できること。	
自己学習の進め方	講義は事前に配布する資料を用いて進めます。必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。講義後は、履修した内容に関連する理療の科目の内容も含めて理解に努めてください。自己学習時、理解ができないところがあれば、次の講義までに質問してください。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価(いずれも筆記試験)の平均点を学年末の評価とします。(小数点以下は切り捨て)	
授業内容	合計 30時間	
前期 (15 週)	前期計	15
ガイダンス		1
1. 遺伝について(概論) メンデルの法則など		2
2. 遺伝のしくみ		8
①血液型と遺伝 ②顕性潜性遺伝 ③伴性遺伝 ④母系遺伝 ⑤多因子遺伝		
3. 染色体異常(連鎖と染色体異常)		3
前期のまとめ		1
後期 (15 週)	後期計	15
1. 生物「免疫について」		
①免疫のシステム		1
②獲得免疫(細胞性免疫、体液性免疫)		2
③免疫と健康		2
2. 生体防御のしくみ		
①免疫グロブリン		1
②アレルギー		2
③感染症について		5
④予防接種		1
後期のまとめ		1

科目名	病理学概論	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	渡邊 麗恵	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ (病理学概論) 改訂第7版第1巻 岡山ライトハウス	
使用参考書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ (病理学概論) 改訂第7版第2巻 岡山ライトハウス	
授業の方法	講義	
科目の概要	疾病の原因や疾病によって現れる症状と生体の反応を学習します。	
到達目標	病理学の基本的事項を理解し、病理学用語を使用できるようになる。	
自己学習の進め方	授業時に確認した病理学の基本的事項を復習し、病理学用語をまとめたノートを作成します。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づいて行います。前期、後期の期末試験で評価し、その平均点をもって学年末評価とします。また、6月と11月に形成的評価を目的とした中間試験を実施しますが、その結果については、学年末の評価には反映させません。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
ガイダンス (授業の進め方、評価方法等)		1
第1編 病理学の基礎		6
第2編 病因 (1) 病因の一般、内因		8
(2) 外因		7
(3) 加齢・老化および小児疾患		2
第3編 病変 (1) 循環障害		6
後 期 (15 週)		後期計 30
第3編 病変 (2) 退行性病変 (変性・萎縮・壊死等)		4
(3) 進行性病変 (肥大・再生・移植等)		5
(4) 炎症 (炎症の概念、原因、炎症の経過と転帰等)		8
(5) 腫瘍 (腫瘍の意義・形態・構造等)		9
(6) 免疫異常 (免疫の仕組み、免疫応答異常、免疫不全等)		4

科目名	臨床医学総論	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	高橋 清志	
実務経験	有	
修得単位数	3	単位
年間授業時数	90	時間
使用教科書	生活と疾病Ⅱ 臨床医学総論 第2版 日本理療科教員連盟教科書委員会編	
使用参考書		
授業の方法	講義	
科目の概要	診察の方法(医療面接、全身の診察、局所の診察、神経系の診察、運動機能検査、徒手検査法)、臨床検査法(尿検査、血液検査)、治療法、臨床心理を学びます。	
到達目標	西洋医学の立場から、正確な診察法や治療についての知識を学習することで、臨床において患者さんに対して、適切な医療面接、診察(徒手検査を含む)を行い、病態についての確に説明できるようになることを目標とします。	
自己学習の進め方	1年次で学んだ解剖学、生理学の知識を基に、病的な状態を理解することが必要となります。同時に理療臨床各論の知識とも結びつけることで、さらなる理解の向上ができます。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に期末試験を実施し、その平均点をもって学年末の評価とします。また、6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが、学年末評価には反映しません。	
授 業 内 容		合計 90時間
前 期 (15 週)		前期計 45
第1章 診察の基礎		
第1節 意義		1
第2節・第3節 一般的心得・診察の内容		2
第4節 記録の目的と内容		2
第5節 POS		1
第6節 関連用語の理解		1
第2章 診察の方法		
第1節 医療面接(問診)		8
第2節～第5節 視診、打診、聴診、触診		12
第6節 測定法		8
第7節 神経系の診察		10
後 期 (15 週)		
後期計 45		
第2章 診察の方法		
第8節 その他の身体機能の診察法		15
第3章 臨床検査法		
第1節 一般検査		5
第2節 生化学的検査		5
第3節 生理学的検査および画像診断の概要		5
第4章 治療法		
第1節 治療の意義と分類		3
第2節 薬物療法		3
第3節～第5節 食事療法、理学療法、その他の療法		3
第5章 臨床心理		
第1節 患者さんの心理		2
第2節 心理学的検査		2
第3節 心理療法		2

科目名	医療臨床医学各論	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	加藤 麦	
実務経験	有	
修得単位数	3	単位
年間授業時数	90	時間
使用教科書	生活と疾病Ⅲ(臨床医学各論)上・下巻 日本理療科教員連盟理療教科用図書編纂委員会	
使用参考書	病気がみえるvol.7(脳・神経)、vol.11(運動器・整形外科) MEDIC MEDIA	
授業の方法	講義	
科目の概要	あはき臨床で遭遇する頻度の高い整形外科疾患及び神経疾患の病態生理から診断・治療に関する基礎的知識を理解し、あはき臨床における病態把握に必要な知識を学習します。また、麻酔科とペインクリニックに関する基礎的知識を理解し、疼痛管理に必要な知識を学習します。	
到達目標	(1)運動器疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。 (2)神経疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。 (3)その他各科の疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。	
自己学習の進め方	解剖学・生理学の知識をベースに病態生理を理解し、さらに臨床医学総論で学ぶ症状や所見、検査などと関連させて学習しましょう。	
評価の方法・観点	前期末と後期末の学科試験にて評価を行い、その平均点を持って学年末評価とします。なお、前期・後期とも中間期(6月・11月)に形成的評価を実施しますが、単位修得には関係しません。	
授 業 内 容		合計 90時間
前 期 (15 週)		前期計 45
1. ガイダンス(年間計画・評価について)		1
2. 整形外科疾患		
(1) 保存療法と手術療法		2
(2) 関節疾患		6
(3) 骨代謝性疾患・骨腫瘍		4
(4) 筋・腱疾患		3
(5) 形態異常		5
(6) 脊椎疾患		6
(7) 脊髄損傷		3
(8) 外傷		4
(9) その他の整形外科疾患		5
3. 前期のまとめ		4
4. 中間試験(講評を含む)		2
後 期 (15 週)		後期計 45
4. 神経疾患		
(1) 脳血管疾患		8
(2) 感染性疾患および脱髄性疾患、脳・脊髄疾患		4
(3) 基底核変性疾患、その他の変性疾患		5
(4) 認知症		4
(5) 筋疾患、運動ニューロン疾患		5
(6) 末梢神経疾患、神経痛		5
(7) 頭痛		4
5. 麻酔科とペインクリニック		
(1) 麻酔科		2
(2) ペインクリニック		2
6. 後期のまとめ		4
7. 中間試験(講評を含む)		2

科目名	東洋医学概論Ⅱ	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	柴田 均一	
実務経験	無	
修得単位数	3 単位	
年間授業時数	90 時間	
使用教科書	「新版 東洋医学概論」 東洋療法学校協会編	
使用参考書		
授業の方法	講義	
科目の概要	臓腑の生理と病理を理解し、東洋医学独特の診察法によって証を立て、適切な治療方針を導き出せるよう学習します。	
到達目標	1. 各臓腑の生理と病理を理解し、説明できること。 2. 四診法の内容をよく知り、立証ができるようになること。 3. 証に基づいて適切な治療方針を導き出し、実践できること。	
自己学習の進め方	過去の国家試験問題を解き、自身で解説を作ります。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づいて行います。前期、後期の各学期ごとに期末試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。また、6月と11月に形成的評価を目的とした中間試験を実施しますが、その結果については、学年末の評価には反映させません。	
授 業 内 容		合計 90時間
前 期 (15 週)		前期計 45
ガイダンス (年間授業内容の説明)		1
1 各臓腑の生理と病理		16
2 各臓腑の特徴的な病証		10
3 五臓の相互関係		10
4 五臓と陰陽との関係		3
5 診察法の概要		3
前期のまとめ		2
後 期 (15 週)		後期計 45
6 診察法各論		12
望診法、聞診法、問診法、切診法		
7 弁証法		13
八綱弁証、経絡弁証、六経弁証		
8 治療法		18
鍼灸治療法、湯液治療法、その他の治療法		
後期のまとめ		2

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	松浦 久泰	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	新版経絡経穴概論 日本理療科教員連盟 社団法人東洋療法学校協会編	
使用参考書	『経絡経穴概論 改訂版』全国盲学校長会編 大阪市立盲学校理療科研究部著	
授業の方法	講義	
科目の概要	1年で学んだ経絡経穴学を踏まえ、2年では更に深化させます。あはき師として必要な経絡経穴と解剖学の知識を学び、取穴と基本的な配穴能力を身につけます。	
到達目標	1. 十四経に所属する全ての経穴の部位と解剖が言え、取穴できる。 2. 要穴は五要穴に加え五行穴・八会穴・八総穴なども言える。 3. 主な組み合わせ穴が言える。 4. 奇経八脈の名前と流注の概要が言える。 5. 主な奇穴が言え取穴できる。 6. 経絡経穴の現代医学的研究成果の概要が言える。	
自己学習の進め方	予習・復習ともに教科書を全部覚える気持ちでしっかり読んで下さい。それが難しくれば授業中に特に重要なことをノートしていただきますので、まず、それを復習、記憶して下さい。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末の筆記試験によって評価を行い、その平均点をもって学年末評価とします。6月と11月には形成的評価(中間試験)を実施しますが成績には加味しません。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 経絡経穴の基礎知識		2
2. 十四経の流注と各経穴		
督脈		2
任脈		2
肺経		2
大腸経		2
胃経		4
脾経		2
心経		1
小腸経		2
膀胱経		4
腎経		2
心包経		1
三焦経		2
前期のまとめ		2
後 期 (15 週)		後期計 30
2. 十四経の流注と各経穴の続き		
胆経		4
肝経		2
3. 奇経八脈		2
4. 奇穴		5
5. 組合せ穴		2
6. 経絡経穴の現代的研究		2
7. 要穴の総復習		4
後期及び年間のまとめ		9

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習 I	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	中西初男、吉野徹也	
実務経験	有	
修得単位数	4	単位
年間授業時数	120	時間
使用教科書	岡山盲理療研究会編著 手技療法の基礎と臨床	
使用参考書		
授業の方法	実技	
科目の概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を修得します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施術者としての基本的態度、礼節を身に付けることができる。 2. 主要な症状・疾患に対して基本的身体診察が行うことができる。 3. あま指臨床実習に参加できる知識と技術を身につけることができる。 4. あま指に関わる過誤について対処ができる。 	
自己学習の進め方	施術部位における解剖学的構造や各疾患の症状を理解し、正しく安全に施術できるよう練習しましょう。また、深化型補習への参加によって、履修した内容を復習しましょう。	
評価の方法・観点	前期、後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。後期は臨床実習前試験を含めた評価を実施します。なお、臨床実習前試験については法定時間数に記載していません。 また、前期、後期に形成的評価を実施します。	
授 業 内 容		合計 120時間
前 期 (15 週)		前期計 60
1. 導入 (指導計画の説明等)		2
2. 実践的な施術方法		
(1) 1年次のあん摩施術の基礎の確認		8
(2) 全身のあん摩施術		20
3. 臨床入門 (臨床実習前試験への対応含む)		
(1) リスク管理、患者への対応		2
(2) 臨床を見据えた応用施術		20
4. 前期のまとめ		8
後 期 (15 週)		後期計 60
5. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術		
(1) 運動器系		17
(2) 呼吸器系・循環器系		10
6. 臨床入門 (臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 診察の進め方		10
(2) 診察から施術の流れ (医療面接・身体診察・施術)		10
7. 模擬臨床実習		3
8. 後期のまとめ		10

科目名	はりきゅう応用実習 I	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	高橋 忠庸、池田 和久、佐藤 智紀	
実務経験	無	
修得単位数	4 単位	
年間授業時数	120 時間	
使用教科書	鍼灸実技 オリエンス研究会編	
使用参考書	新版 経絡経穴概論、人体の構造の機能 解剖学 第2版	
授業の方法	実技	
科目の概要	施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施術者としての基本的態度、礼節を身に付けること。 2. 主要な症状・疾患に対して基本的身体診察が行えること。 3. 主要な症状・疾患に対して安全かつ適切、効果的な鍼灸施術が行えること。 4. 臨床実習に参加できる知識と技術を身に付けること。 5. 鍼灸に関わる過誤・副作用についての知識及び対応方法等を身に付けること。 	
自己学習の進め方	解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論、臨床医学総論、理療臨床医学各論の内容が含まれるため、事前に取穴法や診察に関連する内容の復習をして実習に臨んでください。実技室以外では鍼は扱わないようにしてください。	
評価の方法・観点	前期、後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。後期は臨床実習前試験を含めた評価を実施します。なお、臨床実習前試験については法定時間数に記載していません。また、前期、後期に学年末評価に加味しない形成的評価を実施します。	
授 業 内 容		合計 120時間
前 期 (15 週)		前期計 60
1. 基礎実技		
直刺・斜刺・横刺		6
17手技		6
2. 西洋医学的診察法に基づいた鍼灸施術		
(1)骨盤と腰仙・仙腸関節		8
(2)背腰部		8
(3)下腿と足関節		4
(4)膝関節		4
(5)肩関節		4
(6)前腕と手関節		2
(7)頭頸部		2
3. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1)衛生リスク管理、患者への対応		7
(2)身体診察(触察、知覚検査等)		8
前期のまとめ		1
後 期 (15 週)		後期計 60
4. 分野別の治療法(健康医学分野、産業医学分野、スポーツ医学分野、老年医学分野)		4
5. 特殊鍼法(小児鍼法、皮内鍼法、灸頭鍼法)		4
6. 日常遭遇しやすい主な疾患や症状に対する診察と施術		
(1)運動器系(肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛)		10
(2)呼吸器・循環器系(咳嗽、高血圧症)		6
(3)消化器系(胃炎、便秘、下痢)		6
(4)婦人科系(月経異常、更年期障害)		4
7. 低周波鍼通電療法		8
8. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1)診察の進め方		4
(2)適応の判定		4
(3)診察から治療の流れ(医療面接、身体診察、治療等)		7
9. 施術所見学		2
後期のまとめ		1

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	小泉 貴、渡邊 麗恵	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 改訂第4版 岡山盲理療研究会編著	
使用参考書	人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科用教科用図書編纂委員会編	
授業の方法	実技	
科目の概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を学びます。	
到達目標	1. 主要な症状・疾患に対して適切かつ効果的にあん摩マッサージ指圧施術を行える。 2. 臨床実習に参加できる知識と技術や態度を身につけている。	
自己学習の進め方	深化型補習への参加によって、履修した内容を復習します。また、施術部位の解剖学的特徴を理解し、基本手技を正しくかつ安全に行うよう練習します。また、施術部位の解剖学的特徴を理解し、応用手技を正しくかつ安全に行うよう練習します。	
評価の方法・観点	前期、後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。後期は臨床実習前試験を含めた評価を実施します。なお、臨床実習前試験については法定時間数に記載していません。 また、前期、後期に形成的評価を実施します。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 導入 (指導計画の説明等)		2
2. 実践的な施術方法 (1年次のマッサージ施術の基礎の確認)		4
3. 健康医学分野の施術法		9
4. 産業医学分野の施術法		6
5. 臨床入門 (臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) リスク管理、患者への対応		1
(2) マッサージ・指圧を含めた施術		6
6. 前期のまとめ		2
後 期 (15 週)		後期計 30
1. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する施術		
(1) 消化器系に対するマッサージ		6
(2) 婦人科系に対するマッサージ		6
2. 運動療法		2
3. 臨床入門 (臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 診察の進め方		2
(2) 診察から施術の流れ		6
4. 模擬臨床		6
5. 後期のまとめ		2

科目名	はりきゅう応用実習Ⅱ	
対象クラス	専門課程2年	1組
担当教官	小林 仁 大久保 正樹	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	鍼灸実技 オリエンス研究会編	
使用参考書		
授業の方法	実技	
科目の概要	1年次に修得したはり、きゅうの知識と基礎的技術を応用し、はりきゅう応用実習Ⅰと連携しながら、主に東洋医学的観点で各種疾患や症状の総合的な判断や治療を行います。	
到達目標	来年度の臨床実習において、患者さんに安全かつ適切に鍼灸施術が行えるようになることと、患者さんに対して適切な説明や、生活指導等が出来るようになることを目標とします。	
自己学習の進め方	1年次の知識と技術の復習と、2年次の他の科目進行に伴い得られた内容を発展・応用することが必要になります。	
評価の方法・観点	前期、後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。後期は臨床実習前試験を含めた評価を実施します。なお、臨床実習前試験については法定時間数に記載していません。 また、前期、後期に学年末評価に加味しない形成的評価を実施します。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (15 週)		前期計 30
1. 年間授業計画、評価、必要用具、身だしなみについての説明		1
2. 体幹の触察と背部俞穴、募穴への施灸と刺鍼		4
(1) 体幹の触察		
(2) 背部俞穴・募穴への施術		
3. 東洋医学による診察法の基礎と鍼灸施術		
(1) 脈状診		5
(2) 比較脈診		5
(3) 基本四証		3
(4) 腹診(上下腹診法を中心に)		3
4. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 衛生リスク管理、患者への対応		4
(2) 施術の流れとリスクに関すること		2
(3) 医療面接に関すること		2
5. 前期のまとめ		1
後 期 (15 週)		後期計 30
6. 原穴・絡穴・郄穴、下合穴の運用と鍼灸施術		6
7. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術		12
東洋医学的診断に基づいた鍼灸施術(灸療法と特効穴の運用を含む)		
(1) 運動器疾患		
(2) 呼吸器、循環器疾患		
(3) 婦人科疾患		
(4) 消化器系疾患(胃炎、便秘、下痢)		
8. 特殊鍼法(皮内鍼法、接触鍼法(小児鍼)ほか)		4
9. 臨床入門(臨床実習前試験への対応を含む)		
(1) 診察の進め方		2
(2) 適応の判定(リスク管理を含む)		2
(3) 診察から治療の流れ(医療面接、身体診察、脈診、取穴、施灸操作等)		3
10. 後期のまとめ		1

令和3年度授業計画書(シラバス)

様式1

科目名	衛生学・公衆衛生学	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	佐取 幸枝	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	疾病の成り立ちと予防 I 衛生学・公衆衛生学 (桜雲会)	
使用参考書	公衆衛生がみえる2020-2021 MEDIC MEDIA、国民衛生の動向	
授業の方法	講義	
科目の概要	健康の保持、衛生学・公衆衛生学の基礎について理解するとともに、社会性豊かな施術者としての心構えと態度を養い、これを施術に応用する能力と技術を修得します。	
到達目標	生活習慣病対策を含む健康の保持増進に関する基本的事項を説明できます。 衛生的な生活環境と代表的な公害について説明できます。 消毒法を含む感染症対策の基本的事項を説明できます。 公衆衛生に関わる疫学や統計についての基本的事項を説明できます。	
自己学習の進め方	予習は教科書をよく読み、日頃からニュース等で身近な問題と照らし合わせながら学習しましょう。特に健康の保持増進や生活習慣病対策、感染症対策、消毒法などについては、あはき臨床を意識して学習するとより実践で役立つ知識となります。授業内容について、ノートを作成し、復習に活用してください。	
評価の方法・観点	前期末と後期末の学科試験にて評価を行い、その平均点をもって学年末評価とします。 また、学習内容の理解度を把握するために学年末評価に加味しない形成的評価を適宜実施します。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (16 週)		前期計 32
1. ガイダンス (授業計画・評価)		1
2. 衛生学及び公衆衛生学の意義		1
3. 健康の維持増進と生活		8
4. 生活環境と公害		14
5. 生活習慣病と老人保健		6
6. 前期のまとめ		2
後 期 (14 週)		後期計 28
7. 感染症対策		12
8. 消毒法		4
9. 疫学		2
10. 衛生統計と人口統計		2
11. 産業保健		2
12. 精神保健		2
13. 母子保健		2
14. 後期のまとめ		2

科目名	臨床医学各論	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	佐藤 智紀	
実務経験	無	
修得単位数	3	単位
年間授業時数	90	時間
使用教科書	生活と疾病Ⅲ（臨床医学各論）（上・下巻） 日本ライトハウス	
使用参考書		
授業の方法	講義	
科目の概要	主に内臓器疾患についての概要、諸症状、診断、治療などを学習します。	
到達目標	施術者として必要な現代医学の立場からみた系統別疾患の診断及び治療に関する基礎的知識について学習し、これを施術に応用する能力と態度を身に付ける。	
自己学習の進め方	解剖学、生理学、臨床医学総論、理療臨床医学各論、病理学などで学習した内容が必要になります。事前に授業内容の分野の復習を行って、授業に臨んでください。	
評価の方法・観点	前期・後期期末試験により評価を行い、その平均点をもって学年末評価とします。6月、11月に学年末評価に加味しない形成的評価として中間試験を行います。	
授 業 内 容	合計 90時間	
前 期 (16 週)	前期計 48	
1. ガイダンス（授業の進め方、評価方法等）	1	
2. 第3章 口腔疾患（口内炎等）、消化器疾患細（食道疾患、胃疾患、胃炎、腸疾患、肝疾患、胆石症、膵疾患等）	13	
3. 第4章 呼吸器疾患（感染性呼吸器疾患、慢性閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器障害、その他の呼吸器疾患）	8	
4. 第5章 循環器疾患（心疾患、動脈硬化症・大動脈瘤等）	10	
5. 第6章 血液・増血器疾患（赤血球系疾患、白血球系疾患、悪性リンパ種、出血傾向）	10	
6. 第7章 腎・泌尿器疾患（急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎・尿路結石症、膀胱腫瘍、膀胱炎等） 第9章 男性生殖器疾患（前立腺肥大症、前立腺癌）	4	
7. 中間試験（講評を含む）	2	
後 期 (14 週)	後期計 42	
1. 第17章 婦人科疾患（月経異常、更年期障害、腫瘍疾患、乳房の疾患等）	4	
2. 第8章 内分泌疾患（下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患） 第10章 代謝・栄養疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）	10	
3. 第11章 膠原病・膠原病類似疾患（関節リウマチ、SLE、全身性硬化症等）	6	
4. 第21章 感染症（概要、細菌感染症、ウイルス感染症等）	6	
5. 第12章 一般外科（外傷、ショック、熱傷等）	3	
6. 第14章 皮膚疾患（発疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎等） 第15章 眼科疾患（眼瞼・結膜・角膜・網膜の疾患、白内障・緑内障等） 第16章 耳鼻科疾患（耳疾患、鼻疾患、咽頭疾患等）	6	
7. 第18章 精神医学的疾患、心身症（心身症、神経症、気分障害と統合失調症等）	3	
8. 第19章 小児科疾患（小児の精神疾患、発達障害、睡眠障害等）	2	
9. 中間試験（講評を含む）	2	

科目名	リハビリテーション医学	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	浮田 正貴	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	生活と疾病IAリハビリテーション医学(概論編) 生活と疾病IAリハビリテーション医学(概論編) 追補版 生活と疾病IBリハビリテーション医学(基礎運動学編)	
使用参考書	リハビリテーション医学 第4版(東洋療法学校協会編)	
授業の方法	講義	
科目の概要	疾病や外傷によって生じた障害に対してリハビリテーションを実践することで二次的障害の予防や社会復帰を促すための知識や技術を学びます。また、病院見学実習を通してリハビリテーションの実際を体験します。	
到達目標	リハビリテーションにおける各種評価について説明できる。 リハビリテーションの対象疾患について説明することができる。 臨床実習で遭遇する疾患の施術に実践することができる。	
自己学習の進め方	リハビリテーション医学で取り扱う疾患について臨床医学各論や解剖学などを復習してください。国家試験の問題演習は事前に解答してください。	
評価の方法・観点	前期末、後期末試験の筆記試験の平均を学年末評価とします。6月と11月には学年末評価に加味しない形成的評価を実施します。	
授	業	内
前	期	容
(合計 60時間
16		前期計 32
週		
)		
生活と疾病IAリハビリテーション医学(概論編)		
第1章 リハビリテーションの概要		4
第1節 リハビリテーションの理念(ノーマライゼーションとIL運動)		
第2節 リハビリテーション医学の概要(身体障害の分類)		
第3節 障害の概念(ICIDHとICF)		
第4節 リハビリテーションの分類		
第5節 地域リハビリテーション		
第6節 リハビリテーション医学の諸段階(急性期・回復期・維持期)		
第7節 リハビリテーション・チーム		
第8節 医学的リハビリテーションの流れ		
第2章 障害の評価		12
第1節 評価の目的		
第2節 心身機能・身体構造の評価		
第3節 活動の評価		
第4節 参加および環境因子の評価		
第3章 リハビリテーションの治療		4
第1節 理学療法		
第2節 作業療法		
第3節 言語聴覚療法		
第4節 義肢・装具・車椅子・歩行補助具・自助具		
第5節 リハビリテーション看護		

生活と疾病 I Bリハビリテーション医学（基礎運動学編）	
第1章 運動学の基礎	2
1. てこ 2. 滑車	
第2章 人体の構造と機能	2
1. 関節の構造と種類 2. 関節の運動	
第3章 姿勢と運動のコントロール	3
第1節 体の重心の位置と重心線	
第2節 姿勢の保持	
第4章 上肢の運動	2
第1節 上肢帯（肩甲帯）および肩関節	
第2節 肘関節と前腕	
第3節 手指の関節	
第5章 脊柱の運動	1
第6章 下肢の運動	2
第1節 股関節	
第2節 膝関節	
第3節 足関節および足部	
後 期 （ 14 週 ）	後期計 28
第7章 正常歩行と歩行の異常	3
第1節 正常歩行	
第2節 異常歩行	
生活と疾病 I Aリハビリテーション医学（概論編）	
第4章 疾患別リハビリテーション	
第1節 脳血管障害（脳卒中）のリハビリテーション	5
第2節 脊髄損傷のリハビリテーション	5
第3節 脳性麻痺のリハビリテーション	4
第4節 切断のリハビリテーション	2
第5節 呼吸器疾患のリハビリテーション	2
第6節 骨関節疾患のリハビリテーション	4
1. 肩関節周囲炎（五十肩） 2. 腰痛症 3. 変形性関節症（膝関節症を中心に）	
4. 大腿骨頸部骨折 5. 関節リウマチ 6. 末梢神経損傷（正中神経、 橈骨神経、尺骨神経、大腿神経、総腓骨神経、脛骨神経）	
第7節 神経疾患のリハビリテーション	1
1. パーキンソン病のリハビリテーション 2. 脊髄小脳変性症のリハビリテーション	
生活と疾病 I Aリハビリテーション医学（概論編）追補版	
第8節 心疾患のリハビリテーション	1
病院見学実習	1
後期10月中旬に病院見学実習（理学療法室）を計画する。	

令和3年度授業計画書(シラバス)

様式1

科目名	医療概論	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	浮田 正貴	
実務経験	無	
修得単位数	1	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	医療と社会 改訂第7版	
使用参考書	学生のための医療概論 第4版	
授業の方法	講義	
科目の概要	現代の医療制度と社会保障制度の基礎的知識、社会性豊かな施術者としての心構えや職業倫理や生命倫理について学びます。	
到達目標	現代医療の課題について述べることができる。 医療制度や社会保障制度について説明することができる。 最新の統計情報を取り扱うことができる。 施術者としての倫理（職業倫理）を踏まえて臨床ができる。	
自己学習の進め方	医療制度や社会保障制度についてニュースなどを聞くように心がけてください。国家試験の問題演習は事前に解答してください。	
評価の方法・観点	前期末、後期末試験の筆記試験の平均を学年末評価とします。6月と11月には学年末評価に加味しない形成的評価を実施します。	
授 業 内 容		合計 30時間
前 期 (16 週)		前期計 16
オリエンテーション		1
医療倫理		
医療倫理・医療教育の倫理		3
施術者としての倫理		2
社会保障制度		
介護サービス行政		4
医療保障		2
医療保険の仕組み		2
公費負担医療		1
前期のまとめ		1
後 期 (14 週)		後期計 14
現代医学と医療		
近代医学の特徴		1
医療と社会		2
医療経済		2
医療従事者		1
医療・福祉施設		2
医学史・参考データ・国家試験過去問等		5
後期のまとめ		1

科目名	東洋医学臨床論	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	麻生 弘樹	
実務経験	無	
修得単位数	5	単位
年間授業時数	150	時間
使用教科書	臨床理学 (あはき師用東洋医学臨床論) オリエンズ研究会	
使用参考書	東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」	
授業の方法	講義	
科目の概要	1年次、2年次に学んだ西洋医学と東洋医学の知識を駆使して、診察、評価及び施術適否の判定を行い、施術を適切かつ効果的に行う知識と態度を学習します。	
到達目標	臨床の基礎、各主要症候に対する診察法、施術の適否、最適なあはき施術法について学びます。 1. 各主要症候に対し必要な西洋医学的診察法、治療の適否の判断ができる。 2. 東洋医学的診察法により証を立て、その症状や所見について説明又は記述できる。 3. 適応である場合、症状・疾患に対するあん摩マッサージ指圧、鍼灸施術について治療法を取捨選択し患者に説明ができる。 4. 東洋医学における治療原則及び治法の概要について説明又は記述できる。 5. 各疾患の特徴を理解し、病態生理、症状、経過、治療法等を簡潔に説明出来る。	
自己学習の進め方	関連科目(臨各・臨総・東概・経穴など)の内容も含めて振り返り学習してください。国家試験の過去問題についてもどうしてこれが正答となるのか考えをまとめておいてください。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に期末試験を実施し、その平均点をもって学年末の評価とします。また、6月、11月に学習内容の理解度を把握するための形成的評価(中間試験)を実施します。	
授 業 内 容		合計 150時間
前 期 (16 週)		前期計 80
治療総論		10
現代医学的な考え方		
東洋医学的な考え方		
治療各論		10
伝統・経験的な鍼灸治療		
現代医学的な鍼灸治療		
主訴に対する鍼灸療法		
肩こり、頸肩腕痛		10
肩関節痛、上肢痛		5
形成的評価		1
腰下肢痛、膝痛		10
運動麻痺、高血圧		10
低血圧、食欲不振		4
頭痛、顔面痛		5
スポーツ医学における鍼灸療法		15
後 期 (14 週)		後期計 70
治療各論		
顔面麻痺、歯痛		5
眼精疲労、鼻閉・鼻汁 脱毛症、めまい		3
耳鳴り・難聴、咳嗽		5
喘息、胸痛、腹痛		10
悪心・嘔吐、便秘と下痢		10
形成的評価		1
月経異常、排尿障害		10
発熱、のぼせと冷え		4
老年医学における鍼灸療法		10
その他		12

科目名	臨床診察学	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	加藤 麦	
実務経験	有	
修得単位数	1	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	なし	
使用参考書	生活と疾病Ⅱ(臨床医学総論)、臨床推論-臨床脳を創ろう	
授業の方法	講義(演習を含む)	
科目の概要	施術者として必要な医療面接と生体観察を含む身体診察による臨床推論の実際について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。	
到達目標	臨床推論に基づいた医療面接により病歴聴取ができる。 臨床推論に基づいた身体診察により身体所見が取れる。	
自己学習の進め方	あはき臨床で遭遇する可能性の高い筋骨格系及び神経系の疾患について、臨床医学総論と臨床医学各論で学んだことを復習しましょう。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。なお、前期末は臨床推論や医療面接についての学科試験を実施し、後期末は整形外科的検査法や神経学的検査法についての実技試験を実施します。	
授 業 内 容	合計	30時間
前 期 (16 週)	前期計	16
1. 医療面接の進め方(意義、内容)		5
2. 身体診察の進め方の一般(視診、聴診、触診を中心に)		2
3. 筋・骨格系症状の診察(肩こり、頸肩腕痛、肩痛、肘痛、手関節痛、腰下肢痛)		8
4. 前期のまとめ		1
後 期 (14 週)	後期計	14
5. 筋・骨格系症状の診察(膝痛、足の痛み)		4
6. 神経系の診察の一般		1
7. 感覚障害の診察		3
8. 運動機能障害の診察		3
9. 自律神経症状の診察		2
10. 後期のまとめ		1

科目名	臨床取穴学	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	高橋 忠庸	
実務経験	無	
修得単位数	1 単位	
年間授業時数	30 時間	
使用教科書	新版 経絡経穴概論	
使用参考書	なし	
授業の方法	講義(演習を含む)	
科目の概要	施術者として必要な取穴法、選穴法及び配穴法について生体観察を通じて学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。	
到達目標	1 体表解剖を意識した取穴をすることができる。 2 施術に用いる選穴法・配穴法を活用することができる。	
自己学習の進め方	総合的な知識が求められるため、解剖学や生理学、経穴概論および東洋医学の復習を心がけましょう。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。評価は、前期、後期に筆記試験等を実施します。	
授 業 内 容		30
前 期 (16 週)		前期計 16
1. 取穴法・選穴法・配穴法の基本		
(1) 取穴法の基本と生体観察(体表指標の触察、基準線の確認、骨度法の確認、各種体表所見の触診)		2
(2) 経脈の流注と取穴姿勢、取穴方向、切経		2
(3) 選穴、配穴、取穴の関係		2
2. 選穴法の原則		
(1) 近隣(局所)取穴法		2
(2) 遠隔取穴法(巨刺、繆刺、四総穴や下合穴による遠道刺、循経取穴)		2
(3) 症状に応じた取穴(五俞穴や八会穴による取穴、特効穴としての奇穴治療)		2
(4) 随証取穴(中医弁証、正経・奇経治療)		2
前期のまとめ		2
後 期 (14 週)		後期計 14
3. 鍼灸施術による配穴法の運用		
(1) 正経治療		3
(2) 奇経治療		2
(3) 中医弁証による治療		2
(4) 太極療法		3
(5) その他の治療(子午治療、深谷療法、長野式治療)		3
後期のまとめ		1

令和3年度授業計画書(シラバス)

様式1

科目名	地域理療と理療経営	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	佐取 幸枝	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	地域理療と理療経営(岡山ライトハウス)	
使用参考書	公衆衛生がみえる2020-2021 MEDIC MEDIA、国民衛生の動向	
授業の方法	講義	
科目の概要	地域社会における理療の役割、保健・医療・福祉のあり方及び理療経営について学習し、社会性豊かな施術者並びに経営者としての心構えと態度を養い、これを応用する技能を習得します。	
到達目標	理療に係る保健・医療・福祉の諸制度と理療経営に関する実務について理解し、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として開業及び就労に備えることができます。	
自己学習の進め方	日頃から各種就労セミナーや施術所・職場見学に積極的に参加し、開業・就労の進路選択の一助になるよう、地域への取組みを身近なものにしていきましょう。	
評価の方法・観点	前期末と後期末の学科試験にて評価を行い、その平均点を持って学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (16 週)		前期計 32
1. ガイダンス(授業計画・評価)		2
2. 地域社会と理療		6
3. 施術のリスク管理		6
4. 就労に係る法律、制度		4
5. 健康保険制度における理療		12
6. 前期のまとめ		2
後 期 (14 週)		後期計 28
7. 労災保険における理療の取り扱い		2
8. 公費負担医療における理療の取り扱い(生活保護法における取り扱い)		1
9. 自動車賠償責任保険における理療の取り扱い		1
10. 地域社会における施術費助成制度(施設費払い制度、その他の助成制度)		1
11. 理療経営の基本		14
12. 賠償責任保険		1
13. 介護保険制度と理療		6
14. 後期のまとめ		2

科目名	あん摩マッサージ指圧臨床実習 I	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	中西 初男、尾崎 雅則	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	90	時間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 (改訂第4版)	
使用参考書	臨床理学 (初版)	
授業の方法	実習	
科目の概要	1年次、2年次に学んだあん摩マッサージ指圧実技の技術を駆使して、診察、評価及び施術適否の判定を行い、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を習得します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理療師として必要な基本的な心構えと態度(礼儀作法、言葉づかい、身だしなみ、接遇態度など)を身に付け実践できる。 2. 設備や備品の管理、清潔の保持(消毒を含む)ができる。 3. 臨床実習室にある各種医療機器の操作法について、使用上の注意も含めて理解し、教官の指導のもとで適切に使用できる。 4. 他の科目で学習した知識や技能を活用し、適切かつ効果的な診察や治療ができる。 5. 施術適否の判定ができる。 6. 臨床実習の内容をカルテとして作成できる。 7. 施術プランに応じて決められた時間内に一定の効果を出すことができる。 8. それぞれの進路にあった知識、技術、コミュニケーションができる。 	
自己学習の進め方	予約患者のカルテ確認、病態把握等、臨床実習準備に重点を置き、関連科目の内容も含めて振り返ることを心がけましょう。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に当該年度の理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価します。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とします。	
授 業 内 容		合計 90時間
前 期 (16 週)		前期計 48
1. ガイダンス		6
(1) 臨床実習の位置づけと施術室における流れの説明		
(2) 環境確認 (ベッドメイキング、患者の誘導、後片付けを含む)		
(3) リスク管理、衛生管理、施術録作成の説明・指導		
2. 実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術		36
(1) 再診における問診必要事項の聴取		
(2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定		
(3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て		
(4) 利用者による施術と教官による確認と指導		
3. 効果判定、評価		2
(1) 利用者と教官による直後効果の判定、評価		
(2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取		
4. パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス		2
利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導		1
5. 前期のまとめ		1
後 期 (14 週)		後期計 42
6. 実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術		33
(1) 初診・再診それぞれに応じて問診必要事項の聴取		
(2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定		
(3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て		
(4) 利用者による施術と教官によるチェックと指導		
7. 効果判定、評価		6
(1) 利用者と教官による直後効果の判定、評価		
(2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取		
8. パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス		2
利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導		
9. 後期のまとめ		1

科目名	あん摩マッサージ指圧の歴史と理論	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	柴田均一	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	基礎保健医療Ⅱ(保健医療理論) 都立文京盲理療科研究会著 改訂版	
使用参考書		
授業の方法	講義	
科目の概要	あん摩マッサージ指圧師として必要なあん摩、マッサージ、指圧の歴史と基礎及び臨床応用についての事項を学びます。手技療法による刺激が生体にどの様に作用し、どのような反応が起こるのか、期待できる治療効果はどのようなものかについて学習します。	
到達目標	1. あん摩マッサージ指圧それぞれの歴史を知り、説明できること。 2. 手技療法の基礎的内容及び臨床効果を理解し、説明できること。 3. リスク管理の内容を知り、実践できること。	
自己学習の進め方	過去の国家試験問題を解き、自分で解説を作ります。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づいて行います。前期、後期に期末試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。また、6月と11月に形成的評価を目的とした中間試験を実施しますが、その結果については、学年末の評価には反映させません。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (16) 週		前期計 32
ガイダンス(年間授業内容の説明、本科目の臨床実践や国家試験における位置づけ等)		1
1 あん摩マッサージ指圧の意義		1
2 あん摩(基本手技の名称と機械的要素、各基本手技の適応部位、主な作用)		7
3 マッサージ(基本手技の名称と機械的要素、各基本手技の適応部位、主な作用)		6
4 指圧(押圧の仕方による圧法の種類、各手技の適応部位、主な作用)		5
5 その他の関連する治療法(カイロプラクティック、関節モビリゼーション等)		4
6 あん摩マッサージ指圧の臨床応用(刺激の大小と生体反応、適応症と禁忌症等)		4
前期のまとめ		4
後 期 (14) 週		後期計 28
7 リスク管理(揉みかえし、骨折、転倒等の予防)		6
8 基礎理論(皮膚の受容器、伝導路等)		8
9 治効理論(機械的刺激による効果、反射作用を利用した効果)		6
10 関連学説(ホメオスターシス、ストレス学説等)		4
後期のまとめ		4

科目名	はりきゅうの歴史と理論	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	小林 仁	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	理療理論 (改訂第10版) 盲学校理療教科用図書編集委員会編	
使用参考書	はりきゅう理論 東洋療法学校協会編	
授業の方法	講義	
科目の概要	はりきゅうの歴史的経緯と鍼灸療法の基礎、臨床応用、科学的な治効理論について学びます。	
到達目標	はりきゅうの歴史と、はりきゅうの治効理論について、臨床の場で患者さんに説明できるようになることを目標とします。	
自己学習の進め方	1年次・2年次の東洋医学概論、経穴概論、解剖学、生理学等の内容を復習し、当該科目で得られた知識と統合させていくことが必要となります。	
評価の方法・観点	評価は前期・後期の期末試験により、その平均点をもって学年末評価とします。また、年度末評価に加味しない形成的評価として、6月と11月に中間試験を実施します。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (16 週)		前期計 32
1. 年間授業計画、評価についての説明		1
2. 鍼の種類と刺鍼方法		6
3. 灸法の分類		6
※上記2と3の内容に、適宜はりきゅうの歴史と意義について触れる。		
4. 鍼灸の臨床応用 (感受性と刺激量、鍼灸の適応と禁忌)		6
5. 鍼灸のリスク管理		12
6. 前期のまとめ		1
後 期 (14 週)		後期計 28
1. 体性感覚と鍼灸刺激		6
2. 鍼刺激による鎮痛		5
3. 鍼灸の関連学説		4
4. 鍼灸刺激による局所炎症		4
5. 鍼灸刺激と神経性反応 (自律神経を含む)		4
6. 鍼灸刺激と体液性反応 (免疫反応を含む)		2
7. 鍼灸の作用機序に関する最新知見		2
8. 後期のまとめ		1

科目名	理療情報活用	
対象クラス	専門課程3年	1組
担当教官	池田 和久	
実務経験	無	
修得単位数	1	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書		
使用参考書		
授業の方法	講義	
科目の概要	(1) 情報と情報機器 (2) 情報のモラルとセキュリティ (3) 情報機器の理療への活用	
到達目標	情報機器の活用を通じて、理療分野の情報を適切に収集・処理・発信するための基本的な知識や技能を学びます。また、就労に必要な情報処理能力を習得します。	
自己学習の進め方	毎日の学習にPCを活用し、疑問点等はインターネット等を通じて調べてまとめ、ファイルに整理します。	
評価の方法・観点	前期・後期期末試験により評価を行い、その平均点をもって学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 30時間
前 期 (16 週)		前期計 16
1. ガイダンス (授業計画書、授業の進め方等)		1
(1) 情報と情報機器 ア 情報の意義 イ 情報化の進展とその影響		3
ウ 視覚障害者の情報社会への参加と情報技術の活用 エ 情報機器の基本的な仕組みと操作 (情報機器の構造、情報分野の基本的な用語等、文書作成、表計算等)		9
(2) 情報のモラルとセキュリティ ア 情報の意義とモラル (著作権法、ウイルス対策等) イ 情報のセキュリティ管理		2
2. 前期のまとめ		1
後 期 (14 週)		後期計 14
1. 情報機器の理療への活用 ア 理療における情報機器の活用の目的と意義 イ 個人情報の管理		2
ウ 電子施術録の管理 (カンファレンスを含む) エ 情報システムの理療への応用 (SNS等の活用を含む)		11
2. 後期のまとめ		1

科目名	衛生学・公衆衛生学	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	佐取 幸枝	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅰ 衛生学・公衆衛生学(桜雲会)	
使用参考書	公衆衛生がみえる2020-2021 MEDIC MEDIA、国民衛生の動向	
授業の方法	講義	
科目の概要	健康の保持、衛生学・公衆衛生学の基礎について理解するとともに、社会性豊かな施術者としての心構えと態度を養い、これを施術に応用する能力と技術を修得します。	
到達目標	生活習慣病対策を含む健康の保持増進に関する基本的事項を説明できます。 衛生的な生活環境と代表的な公害について説明できます。 消毒法を含む感染症対策の基本的事項を説明できます。 公衆衛生に関わる疫学や統計についての基本的事項を説明できます。	
自己学習の進め方	予習は教科書をよく読み、日頃からニュース等で身近な問題と照らし合わせながら学習しましょう。特に健康の保持増進や生活習慣病対策、感染症対策、消毒法などについては、あはき臨床を意識して学習するとより実践で役立つ知識となります。授業内容について、ノートを作成し、復習に活用してください。	
評価の方法・観点	前期末と後期末の学科試験にて評価を行い、その平均点をもって学年末評価とします。 また、学習内容の理解度を把握するために学年末評価に加味しない形成的評価を適宜実施します。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (16 週)		前期計 32
1. ガイダンス (授業計画・評価)		1
2. 衛生学及び公衆衛生学の意義		1
3. 健康の維持増進と生活		8
4. 生活環境と公害		14
5. 生活習慣病と老人保健		6
6. 前期のまとめ		2
後 期 (14 週)		後期計 28
7. 感染症対策		12
8. 消毒法		4
9. 疫学		2
10. 衛生統計と人口統計		2
11. 産業保健		2
12. 精神保健		2
13. 母子保健		2
14. 後期のまとめ		2

科目名	リハビリテーション医学	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	牧 邦子	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	生活と疾病ⅠAリハビリテーション医学(概論編) 生活と疾病ⅠAリハビリテーション医学(概論編) 追補版 生活と疾病ⅠBリハビリテーション医学(基礎運動学編)	
使用参考書	リハビリテーション医学 第4版(東洋療法学校協会編)	
授業の方法	講義	
科目の概要	疾病や外傷によって生じた障害に対してリハビリテーションを実践することで二次的障害の予防や社会復帰を促すための知識や技術を学びます。また、病院見学実習を通してリハビリテーションの実際を体験します。	
到達目標	リハビリテーションにおける各種評価について説明できる。 リハビリテーションの対象疾患について説明することができる。 臨床実習で遭遇する疾患の施術に実践することができる。	
自己学習の進め方	リハビリテーション医学で取り扱う疾患について臨床医学各論や解剖学などを復習してください。国家試験の問題演習は事前に解答してください。	
評価の方法・観点	前期末、後期末試験の筆記試験の平均を学年末評価とします。6月と11月には学年末評価に加味しない形成的評価を実施します。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (1 6 週)		前期計 32
生活と疾病ⅠAリハビリテーション医学(概論編)		
第1章 リハビリテーションの概要		4
第1節 リハビリテーションの理念(ノーマライゼーションとIL運動)		
第2節 リハビリテーション医学の概要(身体障害の分類)		
第3節 障害の概念(ICIDHとICF)		
第4節 リハビリテーションの分類		
第5節 地域リハビリテーション		
第6節 リハビリテーション医学の諸段階(急性期・回復期・維持期)		
第7節 リハビリテーション・チーム		
第8節 医学的リハビリテーションの流れ		
第2章 障害の評価		12
第1節 評価の目的		
第2節 心身機能・身体構造の評価		
第3節 活動の評価		
第4節 参加および環境因子の評価		
第3章 リハビリテーションの治療		4
第1節 理学療法		
第2節 作業療法		
第3節 言語聴覚療法		
第4節 義肢・装具・車椅子・歩行補助具・自助具		
第5節 リハビリテーション看護		

生活と疾病 I Bリハビリテーション医学（基礎運動学編）	
第1章 運動学の基礎	2
1. てこ 2. 滑車	
第2章 人体の構造と機能	2
1. 関節の構造と種類 2. 関節の運動	
第3章 姿勢と運動のコントロール	3
第1節 体の重心の位置と重心線	
第2節 姿勢の保持	
第4章 上肢の運動	2
第1節 上肢帯（肩甲帯）および肩関節	
第2節 肘関節と前腕	
第3節 手指の関節	
第5章 脊柱の運動	1
第6章 下肢の運動	2
第1節 股関節	
第2節 膝関節	
第3節 足関節および足部	
後 期 (1 4 週)	後期計 28
第7章 正常歩行と歩行の異常	3
第1節 正常歩行	
第2節 異常歩行	
生活と疾病 I Aリハビリテーション医学（概論編）	
第4章 疾患別リハビリテーション	
第1節 脳血管障害（脳卒中）のリハビリテーション	5
第2節 脊髄損傷のリハビリテーション	5
第3節 脳性麻痺のリハビリテーション	4
第4節 切断のリハビリテーション	2
第5節 呼吸器疾患のリハビリテーション	2
第6節 骨関節疾患のリハビリテーション	4
1. 肩関節周囲炎（五十肩） 2. 腰痛症 3. 変形性関節症（膝関節症を中心に）	
4. 大腿骨頸部骨折 5. 関節リウマチ 6. 末梢神経損傷（正中神経、橈骨神経、尺骨神経、大腿神経、総腓骨神経、脛骨神経）	
第7節 神経疾患のリハビリテーション	
1. パーキンソン病のリハビリテーション 2. 脊髄小脳変性症のリハビリテーション	1
生活と疾病 I Aリハビリテーション医学（概論編）追補版	
第8節 心疾患のリハビリテーション	1
病院見学実習	1
後期10月中旬に病院見学実習（理学療法室）を計画する。	

令和3年度授業計画書(シラバス)

様式1

科目名	医療概論	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	浮田 正貴	
実務経験	無	
修得単位数	1	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	医療と社会 改訂第7版	
使用参考書	学生のための医療概論 第4版	
授業の方法	講義	
科目の概要	現代の医療制度と社会保障制度の基礎的知識、社会性豊かな施術者としての心構えや職業倫理や生命倫理について学びます。	
到達目標	現代医療の課題について述べることができる。 医療制度や社会保障制度について説明することができる。 最新の統計情報を取り扱うことができる。 施術者としての倫理（職業倫理）を踏まえて臨床ができる。	
自己学習の進め方	医療制度や社会保障制度についてニュースなどを聞くように心がけてください。国家試験の問題演習は事前に解答してください。	
評価の方法・観点	前期末、後期末試験の筆記試験の平均を学年末評価とします。6月と11月には学年末評価に加味しない形成的評価を実施します。	
授 業 内 容		合計 30時間
前 期 (16 週)		前期計 16
オリエンテーション		1
医療倫理		
医療倫理・医療教育の倫理		3
施術者としての倫理		2
社会保障制度		
介護サービス行政		4
医療保障		2
医療保険の仕組み		2
公費負担医療		1
前期のまとめ		1
後 期 (14 週)		後期計 14
現代医学と医療		
近代医学の特徴		1
医療と社会		2
医療経済		2
医療従事者		1
医療・福祉施設		2
医学史・参考データ・国家試験過去問等		5
後期のまとめ		1

科目名	東洋医学臨床論	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	小泉 貴	
実務経験	有	
修得単位数	5	単位
年間授業時数	150	時間
使用教科書	臨床理学 (あはき師用東洋医学臨床論) オリエンズ研究会	
使用参考書	東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」	
授業の方法	講義	
科目の概要	1年次、2年次に学んだ西洋医学と東洋医学の知識を駆使して、診察、評価及び施術適否の判定を行い、施術を適切かつ効果的に行う知識と態度を学習します。	
到達目標	臨床の基礎、各主要症候に対する診察法、施術の適否、最適なあはき施術法について学びます。 1. 各主要症候に対し必要な西洋医学的診察法、治療の適否の判断ができる。 2. 東洋医学的診察法により証を立て、その症状や所見について説明又は記述できる。 3. 適応である場合、症状・疾患に対するあん摩マッサージ指圧、鍼灸施術について治療法を取捨選択し患者に説明ができる。 4. 東洋医学における治療原則及び治法の概要について説明又は記述できる。 5. 各疾患の特徴を理解し、病態生理、症状、経過、治療法等を簡潔に説明出来る。	
自己学習の進め方	関連科目(臨各・臨総・東概・経穴など)の内容も含めて振り返り学習してください。国家試験の過去問題についてもどうしてこれが正答となるのか考えをまとめておいてください。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に期末試験を実施し、その平均点をもって学年末の評価とします。また、6月、11月に学習内容の理解度を把握するための形成的評価(中間試験)を実施します。	
授	業	内
前	期	(16 週)
治療総論		合計 150時間
		前期計 80
現代医学的な考え方		
東洋医学的な考え方		
治療各論		10
伝統・経験的な鍼灸治療		
現代医学的な鍼灸治療		
主訴に対する鍼灸療法		
肩こり、頸肩腕痛		10
肩関節痛、上肢痛		5
形成的評価		1
腰下肢痛、膝痛		10
運動麻痺、高血圧		10
低血圧、食欲不振		4
頭痛、顔面痛		5
スポーツ医学における鍼灸療法		15
後	期	(14 週)
治療各論		後期計 70
顔面麻痺、歯痛		5
眼精疲労、鼻閉・鼻汁 脱毛症、めまい		3
耳鳴り・難聴、咳嗽		5
喘息、胸痛、腹痛		10
悪心・嘔吐、便秘と下痢		10
形成的評価		1
月経異常、排尿障害		10
発熱、のぼせと冷え		4
老年医学における鍼灸療法		10
その他		12

科目名	臨床診察学	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	加藤 麦	
実務経験	有	
修得単位数	1	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書	なし	
使用参考書	生活と疾病Ⅱ(臨床医学総論)、臨床推論-臨床脳を創ろう	
授業の方法	講義(演習を含む)	
科目の概要	施術者として必要な医療面接と生体観察を含む身体診察による臨床推論の実際について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。	
到達目標	臨床推論に基づいた医療面接により病歴聴取ができる。 臨床推論に基づいた身体診察により身体所見が取れる。	
自己学習の進め方	あはき臨床で遭遇する可能性の高い筋骨格系及び神経系の疾患について、臨床医学総論と臨床医学各論で学んだことを復習しましょう。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。なお、前期末は臨床推論や医療面接についての学科試験を実施し、後期末は整形外科的検査法や神経学的検査法についての実技試験を実施します。	
授 業 内 容		合計 30時間
前 期 (16 週)		前期計 16
1. 医療面接の進め方(意義、内容)		5
2. 身体診察の進め方の一般(視診、聴診、触診を中心に)		2
3. 筋・骨格系症状の診察(肩こり、頸肩腕痛、肩痛、肘痛、手関節痛、腰下肢痛)		8
4. 前期のまとめ		1
後 期 (14 週)		後期計 14
5. 筋・骨格系症状の診察(膝痛、足の痛み)		4
6. 神経系の診察の一般		1
7. 感覚障害の診察		3
8. 運動機能障害の診察		3
9. 自律神経症状の診察		2
10. 後期のまとめ		1

科目名	臨床取穴学	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	小泉 貴	
実務経験	有	
修得単位数	1 単位	
年間授業時数	30 時間	
使用教科書	新版 経絡経穴概論	
使用参考書	なし	
授業の方法	講義(演習を含む)	
科目の概要	施術者として必要な取穴法、選穴法及び配穴法について生体観察を通じて学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。	
到達目標	1 体表解剖を意識した取穴をすることができる。 2 施術に用いる選穴法・配穴法を活用することができる。	
自己学習の進め方	総合的な知識が求められるため、解剖学や生理学、経穴概論および東洋医学の復習を心がけましょう。	
評価の方法・観点	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。評価は、前期、後期に筆記試験等を実施します。	
授 業 内 容		30
前 期 (16 週)		前期計 16
1. 取穴法・選穴法・配穴法の基本		
(1) 取穴法の基本と生体観察(体表指標の触察、基準線の確認、骨度法の確認、各種体表所見の触診)		2
(2) 経脈の流注と取穴姿勢、取穴方向、切経		2
(3) 選穴、配穴、取穴の関係		2
2. 選穴法の原則		
(1) 近隣(局所)取穴法		2
(2) 遠隔取穴法(巨刺、繆刺、四総穴や下合穴による遠道刺、循経取穴)		2
(3) 症状に応じた取穴(五腧穴や八会穴による取穴、特効穴としての奇穴治療)		2
(4) 随証取穴(中医弁証、正経・奇経治療)		2
前期のまとめ		2
後 期 (14 週)		後期計 14
3. 鍼灸施術による配穴法の運用		
(1) 正経治療		3
(2) 奇経治療		2
(3) 中医弁証による治療		2
(4) 太極療法		3
(5) その他の治療(子午治療、深谷療法、長野式治療)		3
後期のまとめ		1

令和3年度授業計画書(シラバス)

科目名	地域療養と療養経営	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	佐取 幸枝	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	地域療養と療養経営(岡山ライトハウス)	
使用参考書	公衆衛生がみえる2020-2021 MEDIC MEDIA、国民衛生の動向	
授業の方法	講義	
科目の概要	地域社会における療養の役割、保健・医療・福祉のあり方及び療養経営について学習し、社会性豊かな施術者並びに経営者としての心構えと態度を養い、これを応用する技能を習得します。	
到達目標	療養に係る保健・医療・福祉の諸制度と療養経営に関する実務について理解し、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師として開業及び就労に備えることができます。	
自己学習の進め方	日頃から各種就労セミナーや施術所・職場見学に積極的に参加し、開業・就労の進路選択の一助になるよう、地域への取組みを身近なものにしていきましょう。	
評価の方法・観点	前期末と後期末の学科試験にて評価を行い、その平均点を持って学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (16 週)		前期計 32
1. ガイダンス (授業計画・評価)		2
2. 地域社会と療養		6
3. 施術のリスク管理		6
4. 就労に係る法律、制度		4
5. 健康保険制度における療養		12
6. 前期のまとめ		2
後 期 (14 週)		後期計 28
7. 労災保険における療養の取り扱い		2
8. 公費負担医療における療養の取り扱い(生活保護法における取り扱い)		1
9. 自動車賠償責任保険における療養の取り扱い		1
10. 地域社会における施術費助成制度(施設費払い制度、その他の助成制度)		1
11. 療養経営の基本		14
12. 賠償責任保険		1
13. 介護保険制度と療養		6
14. 後期のまとめ		2

科目名	あん摩マッサージ指圧臨床実習 I	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	滝 修、鈴木 格	
実務経験	有	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	90	時間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 (改訂第4版)	
使用参考書	臨床理学 (初版)	
授業の方法	実習	
科目の概要	1年次、2年次に学んだあん摩マッサージ指圧実技の技術を駆使して、診察、評価及び施術適否の判定を行い、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理療師として必要な基本的な心構えと態度(礼儀作法、言葉づかい、身だしなみ、接遇態度など)を身に付け実践できる。 2. 設備や備品の管理、清潔の保持(消毒を含む)ができる。 3. 臨床実習室にある各種医療機器の操作法について、使用上の注意も含めて理解し、教官の指導のもとで適切に使用できる。 4. 他の科目で学習した知識や技能を活用し、適切かつ効果的な診察や治療ができる。 5. 施術適否の判定ができる。 6. 臨床実習の内容をカルテとして作成できる。 7. 施術プランに応じて決められた時間内に一定の効果を出すことができる。 8. それぞれの進路にあった知識、技術、コミュニケーションができる。 	
自己学習の進め方	予約患者のカルテ確認、病態把握等、臨床実習準備に重点を置き、関連科目の内容も含めて振り返ることを心がけます。	
評価の方法・観点	前期、後期の各学期末に当該年度の理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価します。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とします。	
授 業 内 容	合計 90時間	
前 期 (16 週)	前期計 48	
1. ガイダンス	6	
(1) 臨床実習の位置づけと施術室における流れの説明		
(2) 環境確認(ベッドメイキング、患者の誘導、後片付けを含む)		
(3) リスク管理、衛生管理、施術録作成の説明・指導		
2. 実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術	36	
(1) 再診における問診必要事項の聴取		
(2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定		
(3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て		
(4) 利用者による施術と教官による確認と指導		
3. 効果判定、評価	2	
(1) 利用者と教官による直後効果の判定、評価		
(2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取		
4. パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス	2	
利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導	1	
5. 前期のまとめ	1	
後 期 (14 週)	後期計 42	
6. 実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術	33	
(1) 初診・再診それぞれに応じて問診必要事項の聴取		
(2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定		
(3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て		
(4) 利用者による施術と教官によるチェックと指導		
7. 効果判定、評価	6	
(1) 利用者と教官による直後効果の判定、評価		
(2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取		
8. パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス	2	
利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導		
9. 後期のまとめ	1	

科目名	はりきゅうの歴史と理論	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	池田 和久	
実務経験	無	
修得単位数	2	単位
年間授業時数	60	時間
使用教科書	理療理論 (改訂第10版) 盲学校理療教科用図書編集委員会編	
使用参考書	はりきゅう理論 東洋療法学校協会編	
授業の方法	講義	
科目の概要	はりきゅうの歴史的経緯と鍼灸療法の基礎、臨床応用、科学的な治効理論について学びます。	
到達目標	はりきゅうの歴史と、はりきゅうの治効理論について、臨床の場で患者さんに説明できるようになることを目標とします。	
自己学習の進め方	1年次・2年次の東洋医学概論、経穴概論、解剖学、生理学等の内容を復習し、当該科目で得られた知識と統合させていくことが必要となります。	
評価の方法・観点	評価は前期・後期の期末試験により、その平均点をもって学年末評価とします。また、年度末評価に加味しない形成的評価として、6月と11月に中間試験を実施します。	
授 業 内 容		合計 60時間
前 期 (16 週)		前期計 32
1. 年間授業計画、評価についての説明		1
2. 鍼の種類と刺鍼方法		6
3. 灸法の分類		6
※上記2と3の内容に、適宜はりきゅうの歴史と意義について触れる。		
4. 鍼灸の臨床応用 (感受性と刺激量、鍼灸の適応と禁忌)		6
5. 鍼灸のリスク管理		12
6. 前期のまとめ		1
後 期 (14 週)		後期計 28
1. 体性感覚と鍼灸刺激		6
2. 鍼刺激による鎮痛		5
3. 鍼灸の関連学説		4
4. 鍼灸刺激による局所炎症		4
5. 鍼灸刺激と神経性反応 (自律神経を含む)		4
6. 鍼灸刺激と体液性反応 (免疫反応を含む)		2
7. 鍼灸の作用機序に関する最新知見		2
8. 後期のまとめ		1

科目名	医療情報活用	
対象クラス	専門課程3年	2組
担当教官	橋本 拓也	
実務経験	無	
修得単位数	1	単位
年間授業時数	30	時間
使用教科書		
使用参考書		
授業の方法	講義	
科目の概要	(1) 情報と情報機器 (2) 情報のモラルとセキュリティ (3) 情報機器の医療への活用	
到達目標	情報機器の活用を通じて、医療分野の情報を適切に収集・処理・発信するための基本的な知識や技能を学びます。また、就労に必要な情報処理能力を習得します。	
自己学習の進め方	毎日の学習にPCを活用し、疑問点等はインターネット等を通じて調べてまとめ、ファイルに整理します。	
評価の方法・観点	前期・後期期末試験により評価を行い、その平均点をもって学年末評価とします。	
授 業 内 容		合計 30時間
前 期 (16 週)		前期計 16
1. ガイダンス (授業計画書、授業の進め方等)		1
(1) 情報と情報機器 ア 情報の意義 イ 情報化の進展とその影響		3
ウ 視覚障害者の情報社会への参加と情報技術の活用 エ 情報機器の基本的な仕組みと操作 (情報機器の構造、情報分野の基本的な用語等、文書作成、表計算等)		9
(2) 情報のモラルとセキュリティ ア 情報の意義とモラル (著作権法、ウイルス対策等) イ 情報のセキュリティ管理		2
2. 前期のまとめ		1
後 期 (14 週)		後期計 14
1. 情報機器の医療への活用 ア 医療における情報機器の活用の目的と意義 イ 個人情報の管理		2
ウ 電子施術録の管理 (カンファレンスを含む) エ 情報システムの医療への応用 (SNS等の活用を含む)		11
2. 後期のまとめ		1